

「中越大震災 10 年メモリアルツアー」参加報告

1 本ツアーの趣旨

新潟県中越地方を震度 6 強の大地震が襲ってから、本年の 10 月 23 日で 10 年が経ちます。

震災以降、全国の皆様に大変なご支援をいただき、今日まで復興に取り組んできました。ここ、小国町法末集落も全住民が避難するほどの災害でしたが、今はすっかり元の暮らしになり、首都圏から住民が 3 世帯移住するなど、明るく元気な村になりました。

このたび、震災 10 周年を記念して、10 年間の復興で得た経験や教訓を、首都直下地震など次の災害への備えに活かしていただければと考え、メモリアルツアーを企画しました。

2 主催・後援

主催：都市農村広域共助ネットワーク（会長 宮田裕介）

後援：公益財団法人 山のくらし再生機構

3 主要プログラム

- ①山古志など震災被害箇所の見学。
- ②中越大震災後 10 年間の復興への取り組みとその成果を報告（アルパカ村）
- ③パネルディスカッション（テーマ：災害体験者による震災後の防災まちづくりについて）
 - ★阪神淡路：小林郁雄氏（都市計画コンサルタント）
 - ★中越震災：青木勝氏（元山古志村職員、アルパカ村村長）
 - ★中越沖震災：長谷川敏栄氏（まちづくりえんま代表）
 - ★東日本大震災：村上美保子氏（福島県新地町被災者）
 - ★雲仙普賢岳：鐘ヶ江管一氏（元島原市長）
 - ★三宅島噴火：佐藤就之氏（三宅島ふるさと再生ネットワーク会長）
- ④震災体験者の語り部（中越震災と復興の道のり）
- ⑤ワークショップ（首都直下地震への備えと防災まちづくり）

4 参加者

45 名

5 主な行程

【1日目】 11月1日(土) 大型バス 1台

- 7時30分 新小岩駅発 ⇒ 東京駅発 ⇒ 武蔵野市役所前発 ⇒ バスで長岡市へ
14時30分 被災地見学（山古志水没集落）
15時30分 震災被災体験パネルディスカッション（於：山古志震災交流館おらたるホール）
19時30分 中越震災語り部（集落住民）による震災経験講話、懇親会

【2日目】 11月2日(日)

- 6時00分 朝の散策
8時30分 法末自然の家「やまびこ」にてワークショップ
11時00分 アルパカ村見学
12時30分 川口温泉にて入浴・昼食 ⇒ 14時00分 川口温泉発
19時30分 武蔵野市役所着 ⇒ 東京駅着 ⇒ 新小岩駅着

「中越大震災10年メモリアルツアー」

2014年11月1日～2日

11月1日(土)早朝、雨のなか45名が参加。新小岩駅、東京駅八重洲南口、武蔵野市役所前の3ヶ所で集合、大型バス1台にて長岡市へ。



← 大型バス
車内の様子。

バス外観。 →



道中、「戦争にはまだ早い」など新潟県長岡市や、新潟県中越地震ゆかりの映画を上映。



新潟県長岡市山古志支所(正面)および山古志震災交流館おらたるホール(左)外観。



← 本ツアー主催
都市農村広域
共助ネットワーク
会長 宮田裕介氏。



山古志の語り手さんのガイドのもと、山古志の震災被災箇所を見学。



東竹沢の大規模地すべりにより木籠集落が水没。山上に移転後の復興住宅の一部を臨む。



地すべりによる芋川土砂ダム(河川閉塞)により水没した、木籠集落の旧集落跡。



水没した、木籠集落の旧集落跡。木籠集落自体は移転により再建とのこと。

「中越大震災10年メモリアルツアー」

2014年11月1日～2日

11月1日(土)午後 旧山古志村被災箇所見学後、山古志震災交流館にて震災被災体験パネルディスカッション(テーマ:災害体験者による震災後の防災まちづくりについて)を開催。



山古志震災交流館(旧山古志会館)入口。



震災被災体験パネルディスカッションの様子。
(会場は交流館内のおらたるホール)



中越震災:青木勝氏 (元山古志村職員、アルパカ村村長)



← 雲仙普賢岳:
鐘ヶ江管一氏
(元島原市長)



阪神淡路:小林郁雄氏(神戸市、都市計画コンサルタント)



← 中越沖震災:
長谷川敏栄氏
(まちづくりえんま代表)



← 東日本大震災:
村上美保子氏
(福島県新地町被災者)



村上氏による被災の教訓を伝える紙芝居上映。
(広島県民間団体の被災地支援活動による製作)

「中越大震災10年メモリアルツアー」

2014年11月1日～2日

11月1日(土)夕刻 法末集落の宿泊所へ。魚以外は地場の材料による郷土料理に舌鼓を打ち、中越震災語り部(集落住民)による震災経験講話や懇親会を通じて集落住民との交流が行われた。



進行を務める宮田裕介氏。



← 総括を行う
危機管理勉強会
齋藤塾 齋藤塾長



山古志震災交流館 館内展示の一部。



暮れなずむ山古志村を出発、長岡市小国町の法末集落へ向かう。



← 法末自然の家
「やまびこ」入口。



夕食は地場の山菜を中心とした郷土料理。



中越震災語り部(集落住民)による震災経験講話。車座で参加者からも活発に質問が挙がった。



懇親会では集落住民による舞が披露され、昔からの固有の風土として根付いてきたことが伺われた。

「中越大震災10年メモリアルツアー」

2014年11月1日～2日

11月2日(日)早朝より法末集落内を散策。地場の材料による朝食をとった後、災害復興支援の取組みについての紹介を受ける。



法末自然の家「やまびこ」外観。



宮田氏による集落や地勢の特徴などに関する解説を受けながら、散策。



← 集落内にある水車小屋付近より東側を臨む。



登録有形文化財「重家(おもや)」。築300年以上だが、現在も人が居住しているとのこと。



← 集落で採れたもち米を参加者有志がついた餅を、集落住民が分けている様子。



朝食も地元産の素材を生かした料理が振舞われた。



← 宮田氏による震災後集落復興の取組み「越後米百俵プロジェクト」紹介。



← 村上氏による紙芝居映像化のご紹介。震災支援継続のために、被災者から貢献したいとの趣旨によるとのこと。

「中越大震災10年メモリアルツアー」

2014年11月1日～2日

11月2日(日)朝食後、「やまびこ」にてワークショップを開催。その後「アルパカ村」や川口温泉、道の駅「あぐりの里」などに立寄った後、帰京。



法末自然の家「やまびこ」にてワークショップ



ワークショップの様子。和気藹々と腹を割ったやりとりが行われた。



参加者からの質疑応答の様子。



鐘ヶ江 元島原市長。



お世話になった法末集落の皆さま。



被災箇所の復興事業の一つである「アルパカ村」訪問。



川口温泉に立寄った後、雨が降り出すなか道の駅「あぐりの里」に立寄る。



夜に帰京。写真は東京駅八重洲南口鍛冶橋駐車場の様子。